

ご当地 自慢

長野県小県郡青木村

56

東信森林管理署

青木村は長野県の東部、上田市の西に位置し美しい山々に囲まれた山村です。南に夫神岳（標高一、二五〇メートル）、北に子檀嶺岳（標高一、二三三メートル）、西には十観山（標高一、二八四メートル）がそびえ、これらは昔から「青木三山」と呼ばれ村のシンボルとして村民から愛されており、里山トレッキングには最適です。標高は役場の位置で五五五メートルあり、村のほぼ中央を浦野川が東に向かって流

青木三山の一つ「子檀嶺岳」

れ、清新な潤いをもたらしています。そしてこの川に、三方の山に源を発する田沢川、湯川、沓掛川、阿鳥川が合流し、千曲川に注いでいます。村の面積は約五、七〇〇畝で、うち山林が約八割を占めています。

◆タチアカネ（青木村特産そば）

タチアカネは、長野県野菜花き試験場で開発された後、平成二十一年度に農林水産省の認定品種に指定され、本格的な栽培が始まったばかりのそばの品種です。名前の由来は茎が丈夫で倒れにくい特徴から「タチ」と、そばの白い花が実になると茜色になる「アカネ」からきています。独特の風味と甘みが特徴で、十

割そばでもつるつるして子供にも人気です。村内にはタチアカネを食べることのできるお店が五軒ほどあります。



青木村特産そば「タチアカネ」

◆国宝 大法寺三重塔

「見返りの塔」と名付けられたこの塔は、その美しさから思わず振り返るといふ意味からつけられたといわれています。美しさの由来は、初重が特に大きく安定感のある工法で、他には、奈良の興福寺の三重塔だけと極めて珍しい工法です。正慶二年（一、三三三年）、鎌倉から南北朝時代へと移る時期に建設され、以来六世紀の年月を経て今も見る人の目を引きつけています。塔の高さは礎石上端から宝珠上端まで一八、五六メートル。高台にあり周囲の緑と調和して、素朴でありながら美しさを際立たせています。昭和二十八年国宝に指定されました。



国宝 大法寺三重塔

◆田沢温泉、沓掛温泉

十観山の山間にある飛鳥時代後半の開



湯といわれる

田沢温泉は、昔から子宝の湯として、また乳の出が良くなる温泉としても知られています。近くには子安地藏尊を安置した薬師堂があり、四季を通じて参拝客もあり、旅館三軒のほかに、日帰り温泉施設として「有乳湯」があります。沓掛温泉の開湯は平安時代で、地名の旧称から「浦野の湯」と呼ばれた時代もあり、文化七年（一、八一〇年）「旅行用心集諸国温泉二九二ヶ所」にも記載されるほど昔は湯治客で大変賑わい、近隣の温泉地をはるかにしのいだと伝えられています。二軒の旅館のほかに、日帰り温泉施設「小倉乃湯」があります。



田沢温泉

○青木村へのアクセス

・車
上信越自動車道・上田菅平インターから国道一四三号で約三〇分。中央自動車道・長野自動車道・麻績インターから県道一二号で約三〇分

・電車
北陸新幹線・しなの鉄道上田駅から青木行きバスで約三〇分